

まちづくりとコミュニティ

▶ 「まちづくり憲章」

▶ 分譲住宅フェア「まちなみ参観日」

▶ 「経年美化」のまちづくり

▶ 「ひとえん」によるコミュニティの醸成

▶ 「n×豊か」のまちづくり

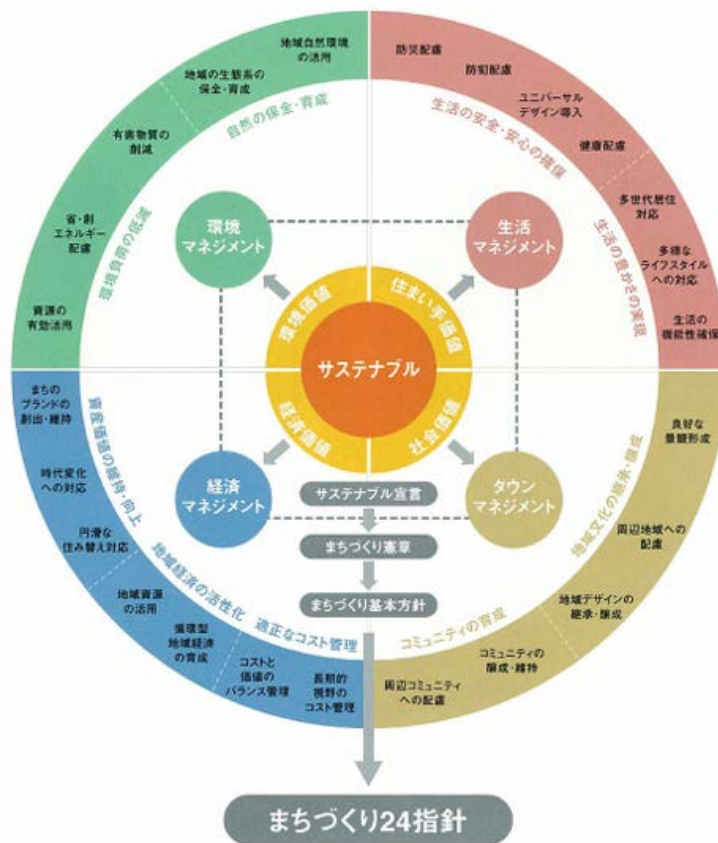
▶ 賃貸住宅のまちづくり

▶ マンション・都市開発の実例

■「まちづくり憲章」

当社は、2005年度に住宅メーカーとして未来への責任を果たすために、「まちづくり憲章」を制定しました。これは当社のまちづくりの中で培われてきたさまざまなノウハウを、持続可能性という考えに基づいて改めてまとめたものです。大きくは当社が考える4つの価値（環境価値・経済価値・社会価値・住まい手価値）をベースにした「環境マネジメント」、「経済マネジメント」、「タウンマネジメント」、「生活マネジメント」という4つの視点を持ち、まちづくり基本方針や具体的な24指針を考慮しながらまちづくりを進めています。

まちづくり憲章
 人がいつまでも安心して
 豊かに暮らしていくために
 かけがえない地球の自然と環境をまもり
 地域の文化とコミュニティを育み
 地域経済の活性化に貢献するとともに
 まちの資産価値を守ることが 私たちの願いです。
 積水ハウスは社会の責任ある一員として 住まいと
 まちがつくりだす住環境を
 人の大切な生活基盤と受け止め
 まちづくりを通して 持続可能な社会の構築に
 寄与することをめざします。



24の指針

4つのマネジメント	指針	解説
生活マネジメント	防災配慮	火災・風水害・地震等の災害に対して、強いまちをつくれます。
	防犯配慮	犯罪企図者の接近や徘徊行為の防止、自衛力の強化等によりタウンセキュリティを高めます。
	ユニバーサルデザイン導入	子どもから高齢者まで年齢差や個人差にかかわらず、誰にでも暮らしやすい基盤を整備します。
	健康配慮	健康を阻害する要因を排除し、心身ともに健全に暮らせる住環境を創出します。

	多世代居住対応	特定の世代に著しい偏りがなく、幅広い年齢層が共存するまちを目指します。
	多様なライフスタイルへの対応	多様なライフスタイルを持つ人々が、一つの地域社会の中で共存するまちづくりにつとめます。
	生活の機能性確保	交通基盤の整備、生活利便施設の充実により、日常生活の機能性を確保します。
タウンマネジメント	良好な景観形成	一定のデザインコンセプトに基づいた、美しいまちなみを形成します。
	周辺地域への配慮	周辺地域の良好な生活環境を維持し、親和を図ります。
	地域デザインの継承・醸成	特色ある歴史・意匠・素材を継承し、地域文化を醸成します。
	コミュニティの醸成・維持	コミュニティの核となる場をつくり、住民参加を前提とした自治活動の仕組みづくりを支援します。
	周辺コミュニティへの配慮	コミュニティ施設の開放・地域の行事等への参画によって、周辺との交流を促進します。
経済マネジメント	長期的視野のコスト管理	維持管理しやすい計画や仕組みをつくり、長期的な視点でコストバランスに配慮します。
	コストと価値のバランス管理	初期投資と魅力的な付加価値づくりとの、適正なバランスに配慮します。
	循環型地域経済の育成	地域経済の活性化のために、地域サービス・地場産業等を活用します。
	地域資源の活用	周辺地域で産出する資源を、建築や外構材料として活用します。
	円滑な住み替え対応	ライフステージ等の変化に伴う住み替えを活性化するための仕組みや、仕掛けを整備します。
	時代変化への対応	新たな時代の動きにも柔軟に対応できるよう先端技術の導入等、時代の潮流をとらえる仕組みを整備します。
	まちのブランドの創出・維持	時と共に成熟し、居住者が愛着を持てるまちを創出することにより、まちの品位とブランドを確立します。
環境マネジメント	資源の有効活用	3Rの推進と再生可能資源の活用により、資源循環を推進します。 3R(reduce・reuse・recycle)
	省・創エネルギー配慮	地域におけるエネルギーの消費を抑え、自然・未利用エネルギーを活用します。
	有害物質の削減	有害物質による大気・水・土壌の汚染を防止します。
	地域の生態系の保全・育成	地域に自生する多様な生物の安定した生息環境を、保全し育成します。
	地域自然環境の活用	日照・通風・水資源等、地域の自然の恵みを積極的に活用します。

関連項目 [▶ ふれあいと「経年美化」のまちづくり](#)

■分譲住宅フェア「まちなみ参観日」

住まいや「5本の樹」計画の庭をまち全体で感じていただける「まちなみ参観日」を開催しています

当社は、1977年から「コモンライフ」「コモンシティ」と名付けたまちづくりに取り組んできました。コモン(Common)とは「共有の」を意味する英語で、積水ハウスのまちづくりのコンセプトです。隣人同士のつながりやコミュニティを意識して設計し、緑豊かな共有広場や街路をシンボルとして設置するなど、より豊かな暮らしとまちのあり方への提案は、地域の皆様から高く評価されています。さらに2005年、「サステナブル宣言」に基づき、「将来にわたり持続可能なまちづくり」を目指して、「まちづくり憲章」を制定しました。



このような特色ある当社の取り組み・思想・まちづくり設計を多くの方々に理解していただくため、2006年からは春と秋の年2回、「まちなみ参観日」を全国一斉に開催しています。ご見学いただく建売住宅の多くは、環境共生住宅※1に認定され、住宅性能評価書※2を取得している物件です。

2010年度は春の「まちなみ参観日」では戸建住宅40会場277棟・マンション物件19会場、秋のまちなみ参観では戸建住宅69会場290棟・マンション6会場144戸とこれまでの戸建住宅の団地に加えて、マンション物件もまちなみ参観に参加し、より幅広い住まいをご覧いただけるようにしました。

※1 環境共生住宅:地球環境の保全、周辺環境との親和、健康で快適な居住環境の条件を満たす住宅として、(財)建築環境・省エネルギー機構が認定。

※2 住宅性能評価書:国に登録した第三者機関が、住宅の品質・性能を評価して交付。設計・完成の2段階がある。

関連項目

- ふれあいと「経年美化」のまちづくり
- 社会性目標と実績

■「経年美化」のまちづくり

当社のまちづくりには、歳月を重ねていくごとに美しくなる「経年美化」の思想が貫かれています。「まちづくり憲章」、「まちづくり基本方針」、「まちづくり24指針」は「持続可能なまちづくりのための設計手法100」をはじめとする様々なマニュアルに、地勢の活かし方や斜面緑地の保全についてなどが具体的に示されています。

「経年美化」のまちづくりとは、劣化しない素材を選んで耐久性の高い施工方法を採用すること(ハード面)と、まちが完成した後の運営と環境との調和を図る循環型の暮らし(ソフト面)とのバランスによって成り立ちます。

資産価値を求めめるばかりではなく、地域文化とコミュニティを育み、さらに、地域生態系本来のバランスを基本とし、将来にわたって全ての人が快適に暮らせる持続可能な「まち」であること。それが当社が目指す「経年美化」のまちづくりです。

コモンシティ亀田駅前(新潟県)

まちなみづくりのために造成からライフラインに至るまで、積水ハウス主導で計画を進めた団地です。50坪弱の敷地で、駐車スペースをまとめることで道路際に植栽できるスペースを確保、中高木も多く配し、通りの緑の連続性を確保しました。アプローチや駐車スペースの仕上げ材も自然石や川砂利など、植栽にも馴染む素材を採用し、全体のデザインバランスを図っています。雪国のため、高木のほとんどを落葉樹にする、アプローチに影を落とす植栽配置など、細やかな配慮も行っています。年とともに育っていく豊かな緑と味わいを増していく自然素材で、四季の移ろいを楽しめる経年美化の団地に育つことを期待しています。



コモンガーデン・草加(埼玉県)

人と自然が繋がり、ずっと住み継がれる豊かなまちづくりを目指し、「草加の歴史と文化が息づく美しい街並景観」「人と緑がやさしく繋がる豊かな住環境」「時と共に愛着の増す経年美化の街」を柱とし、計画を進めています。まちづくりのコンセプトを具現化するために独自の「コモンガーデンまちなみガイドライン」を制定し、各棟の個性を生かしながら、建物全体の色遣いや豊富な植栽によるオープン外構などで、まちなみ全体を設計しています。ゆったりとした明るい印象を持ったまちなみが評価され、第17回草加市まちなみ景観賞(建物景観部門)を受賞しました。



コモンスタージ彦根東(彦根市)

計画地に点在する多数の石や既存樹などを、まちの財産として活用する検討を当初から始めました。さらに周辺地域を知るために「まちあるき」も実施。その結果、多くの既存樹木や石を、彦根らしい風景として公園や住まいに生かすことができました。また、入居前、そして、入居後と、コミュニティを育む取り組みをNPOの協力を得て実施し、周辺環境も含めてまちのコンセプトを理解してもらい、まちへの愛着を持っていただけるような工夫もしています。



関連項目 [ふれあいと「経年美化」のまちづくり](#)

■「ひとえん」によるコミュニティの醸成

積水ハウスのまちにおけるコミュニティ「ひとえん」

人口減少や少子高齢化などが進む中、高齢者への生活支援、介護・育児に関する相互扶助地域、治安の向上や災害時対応など、顕在化するさまざまな課題への対応がコミュニティに求められています。

当社は、3つのち縁(血縁・地縁・知縁)の“縁起こし”の取り組みを進めながら、公園の計画や通りのデザイン、個々の住まいの配置などのハード面だけでまちづくりを考えるのではなく、「コミュニティの育成」というソフト面も大切なテーマとして捉え、親から子へ、子から孫へと住み継がれ、住まい手とともに成長・成熟していくまちのコミュニティづくりを推進してきました。住民間の交流については、常時密接にというよりも、つかず離れずのゆるやかな関係の中で「楽しみや喜び」を共有し、豊かな関係を形成していくことをめざし、積水ハウスのまちにおけるコミュニティを「ひとえん」と名付けました。

機能の異なる2つのタイプのコミュニティ

「ひとえん」は、機能の異なる2タイプのコミュニティで構成されます。当社は暮らしの基盤となる「生活必需コミュニティ」が基盤となり、「楽しみ・喜びをつくる共楽コミュニティ」が自然発生する状況を「ひとえん」としています。

暮らしの基盤となる 生活必需コミュニティ

- ・ 安全・安心の確保(防犯、災害対応)
- ・ 地域の問題解決
- ・ 利便性の向上
- ・ 地域の魅力を高めるものや空間の持続
(まちなみ保全、自然の保全、育成等)
- ・ もしもの時の住民同士の助け合い

楽しみ・遊びをつくる 共楽コミュニティ

- ・ 生活の豊かさの実現
- ・ 他者との交流が深まる
- ・ 生きがいが生まれる
- ・ 地域文化の創出・継承

生活必需コミュニティが基盤となり、
共楽コミュニティが自然発生する状況が
「ひとえん」

3つの視点を体系化し、良質なコミュニティづくりに寄与

当社はこの「ひとえん」を、住宅メーカーとして直接関与できる「場づくり」、コミュニケーション活性化のための「きっかけづくり」、まちの管理などを担う「組織づくり」の支援という3つの視点から考え、まちのコミュニティ形成に寄与していきます。

良質なコミュニティづくりのためには、普段のご近所付き合いができる場づくりと、そこで生まれる住民の方の会話のきっかけづくりが必要で、さらにコミュニティの継続のためには、きっかけづくりで生まれた住民同士の関係を続けながら、まちの管理を行う組織づくりが必要になります。

当社は、まちづくり基本方針のコミュニティに関する部分について、これまでのまちづくりの実績で培ってきた経験やノウハウをもとに「ひとえん」として体系化し、積水ハウスのまちで「コミュニティ育成支援メニュー」として設定しました。また、きっかけづくりと組織づくりを担う「まちづくりアドバイザー」も配置し、コミュニティの成熟段階に合わせて適材適時、良質なコミュニティづくりをサポートしています。

■「ひとえん」づくりを3つの視点で体系化

<p>「ひとえん」の舞台となる 「場」づくり</p>  <p>住民同士が出会い、集う場（空間）づくりや、わがまち意識を醸成する愛着空間づくりを行います。（維持管理ルールも含みませず）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一つの庭からまちを育てる「つながる庭」 ・ まちに点在する集まり場「いどばたスペース」 ・ さまざまな活動ができる「コモンプラザ」「コモンパーク」 ・ わがまち意識を醸成する「まちの顔」 	<p>「ひとえん」を始める 「きっかけ」づくり</p>  <p>住民同士が出会いイベントの実施や、コミュニティ活動の声掛けなどのきっかけづくりを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事系（食事会・隣人祭りなど） ・ 花緑系（植樹祭・ガーデニングイベントなど） ・ 維持管理系（公園の草刈り・住まいのお手入れセミナーなど） 	<p>「ひとえん」の核となる 「組織」づくり</p>  <p>コミュニティの代表として、住民の意見をまとめる組織の設立サポートや、加入促進を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会 ・ 管理組合 ・ 建築協定委員会
---	---	--

「ひとえん」を始めるきっかけづくり「隣人祭り」

「隣人祭り」は、同じ場所に住むご近所同士がオープンスペースに食べ物を持ち寄って交流を深める市民運動で、フランスのパリで始まり、日本でも広がりつつあります。当社は2009年、長崎の分譲地での「隣人祭り」開催後、全国各地の団地で延べ96回の「隣人祭り」を開催。コミュニティ形成に有効な手段であると確認し、住民主体の自発的なイベントとして「ひとえん」づくりのメニューに加えしました。住民の方にも可能であれば準備段階から参加してもらい、必要に応じてテント貸し出しなどのサポートを行いました。



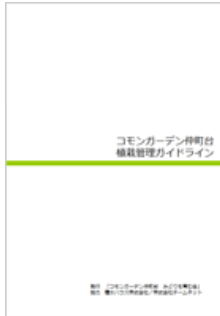
関連項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ふれあいと「経年美化」のまちづくり(P.145) ▶ 社会性目標と実績(P.424)
------	---

「n×豊か」のまちづくり

「n×豊か(エヌバイユタカ)」は、隣地の庭(緑)や周辺環境との「つながり」を考慮しながら配棟や植栽を計画し、自然とつながる住まいづくりを考える設計手法です。

「n×豊か」のポイントは個から始めて「豊かな住まい」と「豊かな街」を同時に作り出す、「気候」「景観」「利用」の3つの「つながり」です。そのためには団地竣工時だけでなく、3つのつながりによって生まれる、コミュニティが土台となり、共通の価値である「豊かさ」を継続していくための活動が重要になります。

2006年に完成した「コモンガーデン仲町台(神奈川県)」では、植栽の管理について、戸建団地では珍しい「風とみどりの憲章」を2009年に締結し、各区画の植栽を共有財産として管理していくことを決めました。植栽の剪定や施肥などについても団地全体で発注することにより、個々の経済的負担を軽くして、永続的に街全体の「豊かさ」を維持できるようにしています。また、「コモアしおつりコバルク(山梨県)」では、「n×豊か」のコンセプトによる計画を効果的に住民の方々に共有できるよう、2010年の夏に「夏の暮らし改善セミナー」を開催し、夜間の外気蓄冷やすだれや、グリーンカーテンによる日射遮蔽の効果を体験いただきました。



コモンガーデン仲町台
植栽管理ガイドライン



夏の暮らし改善セミナー

Rule 1 『気候』のつながり

熱的な快適性を高めるデザインルール。

そのポイントは、緑の放射熱抑制効果と、緑の冷気生成効果とを活かし、
そのうえで風の流れをデザインすることである。
そして、それぞれの効果を隣地との連鎖によって向上させる。



各棟の庭がつながり、クールスポットが生まれる。また接道部の緑は、道路からの熱放射を遮る。二方向の緑とのつながりが風を生みだす。

Rule 2 『景観』のつながり

景観性を高めるためのデザインルール。

そのポイントは、風景がどこまでも奥へと続いているように見せることである。
その視覚的な連続性を隣地や対面する敷地との連鎖によって向上させる。



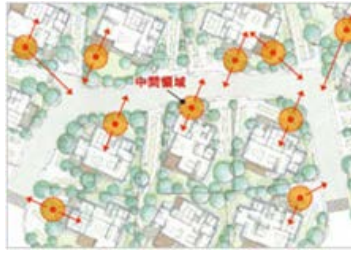
隣地の緑が重なり合い、奥行のあるゆたかな景観が生まれる。

Rule 3 『利用』のつながり

生活領域を外へと拡げるためのデザインルール。

そのポイントは、室内の生活領域を外へ拡張させるように中間領域を活かすことである。

街へと個々の生活が表出することで、近隣住人間のコミュニティ形成を促す。



屋外空間と屋内空間をつなぐ中間領域は、生活領域を街へと拡張させる。

関連項目 ■ ふれあいと「経年美化」のまちづくり(P.145)

■ 賃貸住宅のまちづくり

1棟の中に複数の住戸が計画される賃貸住宅では、1棟が小さなコミュニティとなります。複数の賃貸住宅で構成されるシャーメゾンタウンではさらにコミュニティが広がります。賃貸住宅では資産運用としての収支バランスが重要になりますが、安全・安心で快適な住戸計画、資産価値の高い住棟計画、良質なコミュニティが形成された賃貸住宅では、入居者とオーナー双方の高い満足度が得られます。積水ハウスでは戸建住宅事業で培ったさまざまなノウハウを元に、魅力ある賃貸住宅を提供しています。

エル シエロ アズール(千葉県)

「エル シエロ アズール」はスペイン語で「青空」。その名の通り、敷地内にゆったりと配置した11棟の低層テラスハウスが開放的な生活空間を創造しました。戸建住宅を思わせるヴィラーチェが穏やかな印象を与え、各住棟の庭の植栽は、周辺の緑ともつながり豊かなゆとりを演出。敷地の中央に設けた円形のコモンスペースにはシンボルツリーのクスノキを植え、ヨーロッパのまちなみや街路を思わせる石畳と芝生で温かみを創出しました。入居者同士が気軽に会話を交わし、コミュニティが自然に形成されるよう横長のベンチを複数台設置しています。



マストコート南桜塚(大阪府豊中市)～僕のお家は森の中

周辺にある鎮守の森や公園とのつながりを考慮し、敷地内に緑あふれる空間を創造。既存のエノキなどを生かした造園計画で、森の中に住棟があるようなまちなみを実現したシャーメゾンタウンです。それぞれタイプが異なる7種類のシャーメゾンは、既存樹種のエントランス、ハーブガーデン、プロムナードや豊かな植栽の効果もあり、違和感なく敷地内に混在し、まち全体のバランスを絶妙の形で保っています。

(エクステリアコンペ2010 シャーメゾン複数棟部門 優秀賞)



フローラ(福岡県福岡市)

賃貸住宅らしくない外観・外構計画をコンセプトに設計した、2棟6住戸のシャーメゾンタウンです。入居者を安全に玄関までナビゲートすることを基本に、歩車道分離を徹底し、快適なアプローチを実現しました。外観が単一的にならないように、エントランス側に化粧ブロックや穴開きブロックを用いるなど、戸建住宅を思わせるデザイン性にも配慮。景観としての美しい統一感を持たせました。また、車道に面した西側から敷地全体を囲む緑や、各住棟に続くアプローチ脇や駐車場に配した庭木など、植栽の充実を図ることで、生活空間に潤いを与えています。

(エクステリアコンペ2010 シャーメゾン複数棟部門 佳作)



関連項目

- ▶ ふれあいと「経年美化」のまちづくり
- ▶ シャーメゾンタウン

関連リンク

- ▶ 土地活用成功事例
- ▶ 賃貸住宅のまちづくり事例

■ マンション・都市開発の実例

住まい手側の視点で提案を行う分譲マンション

当社はこれまで培ってきた戸建住宅の住まいづくり、プランニング、そして街並み・景観づくり等をベースに、住宅メーカーがつくる分譲マンションであることを意識しながら、常に、住まい手側の視点で提案を行う分譲マンション「グランドメゾン」を手掛けています。

戸建住宅同様、時を経るごとに愛着や深みを増し、住まいや街並みの価値を高めていく「経年美化」の思想や、地域の気候風土に適した在来種樹木を植える「5本の樹」計画を取り入れ、分譲マンションを「集合住宅」ではなく「住宅集合」といった発想で、住まい手一人ひとりのライフスタイルが浮かび上がる住まいが集まったマンションづくりを目指しています。



<東京テラス>
東京都世田谷区



次代に残る価値を創造する都市開発

すべての人が快適に暮らせる社会の構築に寄与する「住環境創造企業」をめざす当社は、住まいという枠組みを超え、「いい“まち”づくり」にあたってこれを社会的使命と捉え、新しい時代の社会資本の創造に取り組んでいます。

都市開発にあたって当社が大切にしていることは、家づくりと同様、「住まい手、使い手、訪れる人、すべての人にとって、快適で満足感のある空間を創造する」ことです。同時に、自然との共生を考えた緑の供給を軸に、時が経つほどに美しさの高まる都市空間・住環境の育成、すなわち「経年美化する都市開発」が重要であり、このことが都市の価値を高め、ひいては社会全体の価値向上につながると考えています。

当社は、より良い住環境を追求してきた数多くの経験と実績をもとに、街と自然の連鎖を創出し、すべての人の幸せと安心を育み、長期的視点に立って、人や周辺環境と調和の取れた魅力ある都市を創造し、育てることをめざしています。

照葉のまち(福岡県)

2005年、福岡の21世紀モデル都市アイランドシティに誕生した「照葉のまち」では、戸建住宅、集合住宅に約700世帯が暮らしています。当社はコミュニティの活性化をサポートしており、3年前から敷地内の遊休地の一部を利用して芋の苗を植え、地域の子ども会や保育園の園児が参加(2010年度は約160人が参加)する芋掘り大会を継続開催しています。2010年は、他にもマリナコート2番館管理総会の立ち上げの際には「隣人祭り」を、秋の「住まいの参観日」にはメッセージキャンドルを持ち寄りゴスペルコンサートを開催(約200人が参加)。こうした機会が住民同士の自発的な活動につながり、ぶどう狩りやバスツアーなども行いました。



現在、アイランドシティ(照葉地区)には照葉まちづくり協会(TCA)という所有組合の自治組織があります。加入世帯数の多さや、働き盛り世代のコミュニティ活動参加などに課題がありました。当社は、その解決に向けた第一歩として専任担当者を「照葉のまち」に配属し、部会制の導入や組織変更の提案・運用などをサポート。自治組織に協力しながら、「ひとえん」の組織づくりと強化を進めています。

関連リンク

■ [照葉のまち](#) 

■ [照葉のまちづくり協会](#) 

伊丹池尻リテラシティ(兵庫県)

当社が提唱する「生活リテラシー」の思想を取り入れた368戸からなるグランドメゾンです。「遊ぶ」「学ぶ」「守る」「くつろぐ」「結ぶ」をキーワードに鳥や蝶を招待するアクアガーデンやバードブロムナード、オリジナルの菜園BOXを配したCOMMONガーデン、快適な睡眠空間としてリラクゼーションルーム、オリジナル遊具を配したキッズルームなど新しいライフスタイルを実現するさまざまな技術や空間を採用しています。こうした環境が、隣人祭りや菜園教室、持ち寄りバザー、クリスマスイベントなど、さまざまな住民同士の活動にもつながり、場づくり、きっかけづくりの両面からコミュニティ醸成に貢献しています。



リテラシー: 本体の意味は「読み書きの能力」ですが、知識・教養・ノウハウという意味を含め、「自分流の豊

かさを見つける才能」と呼んでいます。

関連リンク [▶ グランドメゾン伊丹池尻リテラシティ](#) 

マスタワー安堂寺(大阪府)

地上32階、地下1階の超高層分譲集合住宅です。設計コンセプトは環境共生で、自然との調和、環境に配慮したエコ仕様、人を歓迎し交流を育む機能、地域との共生などに配慮した空間創造を実現しています。住戸の大半が外皮3面に面しており、豊かな採光と通風効果による省エネルギー性のメリットの他にも、さらに地域の人々に配慮した緑地や、建物内部を貫通する通り抜け路地を設けて、そこを近隣の方々や子どもたちが自由に通行できるようにするなど、周辺地域の環境に積極的に調和させる工夫も施しています。こうした設計の配慮が認められ、「平成22年度第4回大阪サステナブル建築賞受賞建築物」優秀賞を受賞しています。






(仮称)御殿山プロジェクト(東京都)

当社は「御殿山プロジェクト」において最大面積を占めるAブロックの環境配慮型オフィスビル(地上9階・地下1階)を建設しました。オフィス賃室すべてに大規模な超省エネ型LEDグリッド照明を採用。さらに地中熱の恒温性を利用した省エネ技術クールピット、在室人員に応じた必要外気量のみを室内に導入する自動CO₂制御システム、外気冷房の導入に加え、大規模な屋上緑化、敷地内への樹木植樹(1万7480本)などで、CO₂の年間排出量の削減を行い、地球温暖化防止に貢献しています。



関連項目 [▶ ふれあいと「経年美化」のまちづくり](#)

関連リンク [▶ グランドメゾン実例鑑賞:経年美化](#) 
[▶ グランドメゾンのまちづくり](#) 
[▶ 積水ハウスの分譲マンション:グランドメゾン](#) 
[▶ 積水ハウスのまちづくり](#) 